

社団法人 日本パン工業会 設 立 趣 意 書

日本のパン工業は明治初年以来約一世紀の歴史を有し、しかも第二次世界大戦以後漸次日本人の伝統的主食である米の代替として全国的食糧不足の緩和に重要な使命を果たすため廃虚の中から再発足しました。戦後数年を経て、パンを主食とする学校給食の普及並びにここ数年間の国民経済の高度成長に伴う生活構造の洋式化、高度化による食生活の変化と相まって、本邦パン工業は大幅なペースで発展したのであります。

しかしながら、国民経済の驚異的な成長にもかかわらず、わが国の食生活は栄養の観点からすれば、なお欧米先進国に比し格段の遅れのあることは否めない事実であります。この実情と蛋白質脂肪を運ぶパンの主食的使命に思いを至し、加えて選択的拡大の対象農産物である畜産食品、園芸食品の消費拡大と結合し、或は特殊栄養食として、パンは先進国型の食糧消費構造に近づくための中核となるべく、パン工業は一層の発展を期待される産業であります。かく観ずれば、わが国のパン工業関係者は国民食生活の改善の上から、その役割の主要さとその任務の重大さを感じざるを得ません。

しかも日本経済を欧米諸国の水準に近づかしめるための自由化の影響並びに所得倍増計画等に由来する物価騰貴、延いては人件費昂騰等により、パン工業をめぐる最近の状況は、パン企業の体質改善、パン工業の合理化、近代化が喫緊の急務となってきました。

願いますと、パン業界は昭和16年戦時物資統制の始まると同時に、食糧危機突破にパン工業の寄与する座を確立するため、全国パン組合連合会が結成されました（昭和31年現在の全日本パン協同組合連合会に改組）。しかし昭和30年頃より主として大消費地において大型製パン工業者が逐次誕生し、その生産高増嵩は予想以上の急ピッチとなってきました。しかして、低価格販売、徹底したサービス、製品の規格化等の消費者の要望は先ず大型製パン業者に期待される面が多く、これ等消費者の要求を敏感に感得し、叙上の経営上の困難な条件を克服しつつ、大衆の希望に応えることもまた、主として大型製パン業者に課せられた役割であります。

大型製パン業者は上述の新しい社会的使命に目ざめ、進んで政府の施策と前掲の趣旨とを調整吻合せしめ、更に政府当路の諮問に応え、永年の間わが国パン工業の支柱であった全国の中小の同業者と終始友好的に協調し、相提携してわが国パン工業の発展に資し、同時に消費者の利益増進並びに文化の興隆に寄与することがわれわれ大型製パン業者の責務と考え、茲に新団体、社団法人日本パン工業会の結成を決意した次第であります。

昭和38年10月